

教育者としての「使命感」・「人間愛」・「創造力」を有する教員の養成を目指す

2026

春

No.55

JUEN

【ジュエン】

Joetsu University of Education

国立大学法人
上越教育大学
Joetsu University of Education

学園だより

特色教育科目

未来の教育を創る力を育む！

特集

教員就職率 全国トップクラス！

学校教育学部

88.5% 教員就職123名
全国第2位

教職大学院

87.7% 教員就職135名
(現職教員学生を除く)

※令和7年3月卒業・修了者の就職状況



自分たちで創る

学びあいの場

研究室

上教大サイコー!!



上教大は全てが濃い!

学びを支える仲間との繋がり

上越教育大学は一般的な大学と比べて少人数で学べる環境が整っており、学部も教育学部のみとなっています。そんな本学の強みは、学部が1つしかないからこそ生まれる「人との繋がり」だと私は思います。学年全員が揃う授業をはじめ、ナークル活動や、学年を超えた交流の場「学びのひろば」では、学年や分野が違う仲間と出会えます。大学に行けば仲間がいる。困ったときにはすぐに助け合える心強いネットワークが、私の大学生活を支え、「学ぶための土台」を築いてくれています。

教科書だけでは終わらない 知識を「生かす」経験をえられる大学

自分が選択した領域の枠を超えて「学びたいこと」を自由に追求できる柔軟なカリキュラムも私が上越教育大学に進学して良かったと思うポイントです。私は国語コースに所属していますが、自分の好きなことである「音楽」も学びたいという思いから、音楽の授業を数多く履修しています。音楽の授業には、教え方を学ぶ授業をはじめ、ピアノや声楽などの実技の授業、さらには音楽の歴史や日本の伝統楽器について学べる授業など、教師になった時に役立つ「経験」を蓄えられる授業がたくさんあります。

私はこの秋、伝統文化と音楽について学ぶ授業の延長で実際に佐渡島へ行き、伝統の祭りである「鬼太鼓」を体験しました。実際に笛を吹いて街を歩き本場の空気を体験するのは、教科書で学んだり、ただ観察するのは一線を画す、非常に「濃い」学びでした。五感で受け止めたあの臨場感は、私にとって人生における一つの重要なターニングポイントとなる、貴重な経験だったと感じています。この「濃い」実体験を通じて、私は将来教師になる上で、自分自身が多様な経験を積み重ねておくことの重要性を改めて認識しました。座学だけでは得られない深い理解や感動があるからです。

子どもたちに、教科書に載っていない、「生きた世界」の面白さまで教えられる、経験豊かな教師になりたいと強く思っています。



学部3年
教科教育・教科複合コース
(人文・社会/国語)
喜多七楓さん

よこひこそ

いじめを未然に防止するために

私の専門はいじめや不登校、自殺といった生徒指導上の諸課題に対する予防教育であり、特にいじめの未然防止に関する研究を進めています。

いじめ問題は1980年代頃から社会問題化し、当時中学生くらいであった私の周りにもいじめはありました。しかし、近年のいじめ問題を取り巻く状況は当時と同じではありません。特に、現代のSNS等によるインターネットを介したいじめは、家に隔ればいじめられることはなかった当時のいじめとは違って24時間365日続きます。教室のいじめとは違って周りの大人からは見えにくいですが、トイレの壁に書かれた悪口とは違って時間的にも空間的にも無限に広がり続けます。いじめによる苦しみは、私たちが子どもの頃のそれとはまったく質の異なるものになっています。

私にこうしたいじめの発生や深刻化を防止するために、心理教育を柱とした予防教育の研究を進めています。子どもたちにいじめをしない、させない、見逃さない力を育むことで、いじめで苦しむ子どもたちを一人でも減らしていきたいと考えています。



ゼミ生みんなで創る研究室

現在、研究室には学部生8名、教職大学院生8名が所属しています。学校支援プロジェクトにおける支援校での取り組みにおいて、ゼミ生みんなで協議を繰り返しながら、アセスメントに基づいて心理教育の授業案を作成し、授業実践の支援を進めています。個々の研究においては、いじめや不登校、予防教育といったテーマに捕らわれず、定例ゼミや個人ゼミ等で輪読や議論を見直ししながら、一人一人がそれぞれの問いを見出し、課題意識をもって、学校教育の向上に向けた幅広いテーマで研究を進めています。

また、当研究室では、ゼミの企画・運営はすべてゼミ生で行っています。その中で一人一人が主体的に学びを進め、積極的に議論を展開しながら、とても明るく、楽しく、学びのある研究室を創ってくれています。こんな素敵なゼミ生達とともに学べる日々から喜びを感じています。

寺戸武志(ぐらど たけし) 学校教育学系 准教授
兵庫県出身。兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究所 先端課題実践開発専攻修了。博士(学校教育学)。臨床心理士、公認心理師。兵庫県立立川中学校教員。兵庫県立教育研究センター教育総合センター(現、心の教育推進センター)指導主事を経て、2022年4月専任。いじめ・生徒指導研究センター業務。「生徒指導論」「実践的生徒指導の理論」「実践的生徒指導の演習」などの授業を担当。

多様な実践で育成する 授業設計力と指導力

講義・演習・遠隔実践等を段階的にを行い、先端技術を取り入れた授業構想力を育てます。学校現場経験をもつ教員の指導の下、グループで協働しながら遠隔授業を計画・実施し、振り返りを通して実践的な指導力を高めます。

1 一斉講義

教育実習での体験を振り返りながら、GIGAスクール構想や附属小・中学校での実際の様子、CSCL(コンピューターによって支援された協同学習)やAIを活用した先行研究などを学びます。



2 遠隔授業づくり

グループで協力をしながら、道徳の授業をつくります。対面の授業との違いを考え、提示の仕方を工夫したり、児童の反応や発言をどのように受け取るのかを考えたりします。



3 グループ発表

それぞれのグループが考えた授業を模擬授業として実施します。授業チームと児童役はそれぞれの教室に分かれて、実際の授業と同じように取り組みます。



4 振り返り

実際に実践した授業を振り返ります。また、反省点や他のグループの実践を参考にグループで改善点も考えます。



5 遠隔授業実践

グループ発表をもとに代表グループが実際に附属小学校の児童に授業実践し、対面授業との違いや特性を体験的に学びます。



清水 雅之先生



特集

未来の教育を創る力を育む！ 特色教育科目

遠隔×協働で学ぶ、新しい授業づくりを体験！

「ICT活用実践演習」

ICT活用実践演習とは

GIGAスクール構想により学校のICT環境が整えられ、それらを利用してできる人材の育成が求められています。先端技術を取り入れた授業のあり方や、感染症等で学校が閉鎖された場合でも学びを止めない環境を整えることができる教員を養成する取組の一つとして、本授業では遠隔システムを活用した実践力・授業構想力の育成を目的としています。附属小学校との連携により実践される本授業は、遠隔システムを利用した授業実践を大学生の段階で体験できるものであり、他大学には見られない本学独自のものと言えます。

どんなことをするの？

附属小・中学校の実践を知る機会や、専門家から著作権等について学ぶ機会があります。本授業の最大の特色は、遠隔システムを活用した授業を学生が自ら構想し、附属小学校の児童とともに実践できる点にあります。



【担当教員】 清水 雅之 先生・
神原 範久 先生・
井上 久祥 先生

講師の先生から

遠隔授業の体験を通じ、不測の事態においても子どもたちの「学び」を止めない、たくましい実践力を養ってほしいと願っています。また、画面越しでは子どもたちの微細な表情や反応を捉えることが困難だからこそ、逆説的に「対面授業」の真の価値に気づくはずです。

その不自由さを経験した上で、「これまで対面授業で、子どもたちの何を観ていたのか」を改めて自らに問い直し、より深い児童生徒理解に基づいた指導ができる教員へと成長することを期待しています。

教育実習を終えた学部3年生が、教育実習で得た学びを生かしてグループで授業を検討し、指導案教材・資料等を作成した上で、大学の教室と附属小学校の教室を遠隔システムで接続し、実際に授業を行います。

特色教育科目は、上越教育大学が取り組んでいる特色ある教育を広く紹介し、学生が未来の学校教育に対する確かな展望の形成を目指すための科目です。インクルーシブ教育・ICT活用、学級経営、いじめ防止、SDGs、新潟の地域課題等についての科目を開設しています。

「学級経営の理論と実践」

教員養成課程の新たな挑戦
学級経営の必修科目

この授業は、これまで大学では学ぶことが難しいとされてきた学級経営に関し、「学級経営の意義と学級担任の役割」

「学級内の人間関係の在り方とその形成」「学級経営に関する教育法規」を切り口にその理論と具体を学びます。押さえるべき知識はしっかりと押さえるがらも、受講生同士でディスカッションをし、考えながら参加する時間になっています。

【担当教員】赤坂 真二 先生・阿部 隆幸 先生・蜂須賀 洋一 先生



実践に直結、「やりがい」につながる学級経営実践戦略

教員が現場で直面する困難の多くが学級経営に関わるものと言われていました。本授業では、学級経営を網羅的に学びながらも具体的実践をふんだんに紹介することで、その具体をイメージしやすいように構成しています。授業で提示されるテーマについて考え、具体的な戦略や手法をディスカッションすることで、受講生は自分自身の教育哲学を形成し、自身の学級でこれらの学びを実践する基礎を養うことを期待しています。

講師の先生から



赤坂 真二 先生

学級経営は、教師のやりがいと困難が凝縮された分野です。確かな知識に基づいた実践を通して子どもたちとの信頼関係を築く力が最も重要です。この授業における学びが、学生たちの教師人生の確かな土台となることを心から願っております。



まだある！

～教育の未来を切り拓く～

特色教育科目

さらにご紹介！

「ICTを活用したインクルーシブ教育の授業デザイン」

小・中学校では、多様な児童生徒が共に学ぶことを前提とした授業づくりが求められています。本授業では、特別支援教育独自の領域である「自立活動」の理念を基盤とし、個別最適な学びと協働的な学びをデザインするための基礎的な力の養成を目指しています。講義の他、障害のある当事者、通級担当教師、福祉や工学の専門家等とのディスカッションや教材づくりを通して、個々の子どもの学びを支える授業構想に取り組んでいます。

【担当教員】藤井 和子 先生・大森 康正 先生・清水 雅之 先生・東原 貴志 先生・関原 真紀 先生・岡島 佑介 先生・坂口 嘉菜 先生・伊藤 史人 先生（非常勤講師）

「SDGsと教育」

地域のひと・もの・ことをSDGsの観点から捉え直し、持続可能な社会づくりの意義について体験を通して学ぶ授業。SDGsの観点に照らしたフィールドワークプランをグループごとに探り、実際のフィールドワークを通して得た偶然の出会いや驚き、見つけた課題等も含めて発表し合い、学びを深めます。

【担当教員】渡辺 径子 先生・清水 雅之 先生・釜田 聡 先生



副学長（教務担当）からのメッセージ

未来の学校現場で活躍する先生



副学長（教務担当）
志村 喬 先生

学校教育現場の環境、さらには学校を取り巻く社会状況は日々変化し、教員はその時々々の課題に対処することを求められます。ですから、この先の学校教育現場を見据え、未来の教育を創る力を持った教員が必要で、上越教育大学では、そんな力を育むための一方策として、学校教育課題をもとに未来の教育を志向する「特色教育科目」を教育課程に設置しています。

学校教育全体にわたる様々な専門をもつ教員・豊富な学校現場経験をもつ教員が揃った上越教育大学であるからこそ、授業内容は本誌に紹介したように幅広く実践的なものです。これら科目の学修を通し、未来の学校現場で活躍する先生になってほしいと考えています。

「いじめ防止教育論」

現代における喫緊の教育課題であるいじめ防止のための授業として「いじめ防止教育論」があります。法令理解や早期発見のための方法、未然防止の対応など、いろいろな角度から理論と実践の両面で、子どもたちのために何が出来るのかを学べるような授業の構成になっています。

【担当教員】高橋 知己 先生



「新潟教育事情A・B」

「新潟教育事情A・B」は、「新潟次世代教員養成プログラム」の一環で、新潟県内の教員を目指す学生への教育に特化した実践的な科目です。新潟県が抱える教育課題、県の教育政策、学校現場での実践的指導力育成に焦点を当て、地域に根ざした教員を目指す学生の理解を深めることを目的としています。

【担当教員】清水 雅之 先生



ストリートダンス部 公演



最大で 最高のステージ

約3か月にわたり公演に向けて練習を重ね、4年生にとって最後となる舞台に全力で挑みました。観客に楽しんでもらえるよう、私たち自身も精一杯笑顔で踊り切りました。

キラキラの 裏はドタバタ

複数のジャンルをかけ持っていたので、舞台裏の長い通路を忙しく行き来していました。時間に追われつつも、一瞬も無駄にせず次の出演に備え続けました。



ストロゲン、怒濤の学祭公演

B2i TEAM BATTLE

達成感と 次への挑戦

参加者の「楽しかった」という声や笑顔を見ることができて本当にうれしく、大きな手応えを感じました。次回は年齢制限を下げ、さらに多くの人に楽しんでもらいたいです。

危機一髪の 最終戦

いちばん最後のお客さんのゲーム中に機器が原因不明のエラーを起こし、冷や汗をかきましたが、故障ではなく、そのまま大きな問題なく無事に終わることができました。

ゲームも裏方もサバイバル



赤外線ヒット判定も行うサバイバルゲーム

編集後記

上越教育大学を代表する行事である越秋祭の裏側を初めて詳しく知ることができました。不測の事態や長い準備を乗り越える姿に、来年はさらに良い越秋祭にしたいと思いました！



竹花 楓 学部2年
石原 颯太郎 学部2年
白田 野乃華 学部2年



大成功の 越秋祭

越秋祭直前は毎日のように執行部で準備を重ね、本番を大成功で終えることができました。忙しさを乗り越えたことで絆も深まり、来場者の笑顔に達成感を感じました!!



通知が 鳴り止まない

提灯が垂れ下がるのを何度も吊り直したり、ダンスを練習したり、雨天案へ変更したり、大変なことも多かったです。各部署からの確認で4役の携帯は通知が鳴り止みませんでした…

越秋祭の 表側と裏側

学生がつくる
上教大生のひろば

2025年秋のキャンパスを彩った大学祭「第43回越秋祭」。華やかなステージや企画の「表側」はもちろん、その成功を支えた「裏側」のエピソードを上教大生に聞いてみました!

MMS 軽音ライブ



雨ニモマケズ、音ヨナラセ!!

下克上で 掴むステージ

MMSは学祭前に「下克上ライブ」という学祭に出るバンドを部内で選ぶためのライブをしました!約1か月練習し、約30組のバンドの中から選ばれた10組が学祭に出演しました!!

屋内開催でも、 熱気は満員

2日は雨になってしまい前日から機材の搬入や体育館のシート貼りなど雨の日対応になりました。屋内は集客が難しく、不安もありましたが、大成功のライブとなりました。

越秋祭 執行部



達成感の一言!!

企画も出展も数が多かったから、それぞれの要望や意見を聞いてまとめることが難しかったです!



越秋祭 実行委員長 浅倉 和史さん



越秋祭 副実行委員長 前田 惺信さん

越秋祭直前の2日間は仕事量にメモも記憶も追いつかず、「何か自分に仕事頼んでる人、連絡ください」と伝えて寝てました。

模擬店 ジャガバター



ジャガバターが 企画大賞に!

ジャガバターの模擬店が企画大賞1位に輝きました!2日は雨でエントランスから離れた場所での販売でしたが、たくさんのお客さんに食べてもらえてうれしかったです!!

課題に 追われながら…

準備段階ではじゃがいもの発注個数を間違えていることを越秋祭の3日前に気付いたり、当日は用意した調味料だけでは足りず急遽買い足しに走ったり、とっても大変でした!

修了生からの
お便り

Joetsu University of Education



緊急事態宣言から始まった2年間 — 現場と研究の架け橋に —

私が上越教育大学大学院に入学したのは令和2年、まさにコロナ禍の真っ只中でした。緊急事態宣言により約1か月半授業がないという異例のスタート。思い描いていた「院生同士がゼミ室で語り合うような大学院生活」とは程遠く、正直一度心が折れました。

入学前は、幼稚園や保育園で勤務し、最後は園長を務めていました。子どもたちの笑顔や成長、想像を超える発想に出会う日々は楽しく、現場を離れるのにはかなり後ろ髪を引かれました。しかし、経験が重視され若手の意見が届きにくい現状を変えたいという思いと、「園長をさせていただいていた当時は31歳。自分がこの先30年、園長として本当にやっていけるのだろうか」という不安から、一度立ち止まり、学び直しと見つめ直しをテーマに大学院進学を決めました。当時退職を快く受け入れてくださった、理事長、学園長そして職員の皆様には本当に感謝でいっぱいです。

また、短大時代の恩師が現場経験を経て大学で教鞭をとる姿を見て、「自分もいつか保育の実践を理論として伝えられ



渡邊 亮宏
(わたなべ たかひろ)

札幌市出身。大学卒業後、幼稚園・保育所・学童保育などで勤務し、園長を経て上越教育大学大学院学校教育専攻発達支援教育コース（幼年教育領域）に進学。研究テーマは、保育者のノンコンタクトタイム（NCT）と保育の質の関係について。現在は母校である北海道文教大学人間科学部子ども発達学科准教授として、現場経験と研究の両面から保育者養成にあたっている。

る立場になりたい」と感じたことも大きくなっただけでした。

大学院では、保育者の働き方（ノンコンタクトタイム）と保育の質の向上に関する量的研究に取り組みました。コロナ禍で調査が制限される中、山口美和教授の丁寧な指導に支えられ、修士論文を完成させることができました。

現在は北海道文教大学で保育者養成に携わっています。上越で培った現場と研究をつなぐ視点と、現場と大学、実践と理論、両方を経験している私だからこそ、その架け橋になれるよう歩を重ねていきたいと思っています。

附属学校だより

研究主題「生みだす子どもが育つ学校」を掲げ、人間としてよりよく生きることを支える学校づくりに取り組んでいます。

体験活動を通して、子どもの身体の内面に湧き上がる「美感」を大切に、活動を展開しています。

本稿では、当校の教育課程の中核である「創造活動」と、子どもたちの生活や体験に根差した教科活動である「実践教科活動」を紹介します。

上越教育大学 附属小学校 生みだす子どもが育つ学校

4年1組 創造活動「よりのびとステーション」



無人駅とかかわることを通じて、駅や鉄道を利用する楽しさや難しさ、駅にある課題などに基づいて、駅と人のつながりについてのとらえをつくり変えながら、鉄道のある地域に生きる自分をつくってきました。

1年1組 創造活動「もふもふひろば」



ヒツジの親子4頭との生活を通じたことを通じて、4頭それぞれの性格や行動の違い、親子の関係性に基づいて、ヒツジとの関係やそれに応じた場をつくり、つくり変えながら、自分の生活をつくってきました。

5年1組 実践国語科「心ふれるストーリー」



仲間についての物語を読んだりついたりすることを通して、自分や仲間が見いだす腑に落ちなさや面白さに基づいて、仲間についての見方や、言葉のとらえと表現をつくり変えながら、言葉の魅力をひろげてきました。

2年2組 創造活動「はればれテント」



テント生活を通して、テントの中やその周りで楽しみをつくったり、テントを移したりして、生活を充実させていく喜びに基づいて、仲間との楽しみをつくり変えながら、仲間と共に豊かに過ごしてきました。

6年2組 創造活動「上越Gozzo膳」



膳とかかわることを通じて、上越の食文化のよさや課題に基づいて、膳の意味や価値をつくり変えながら、それを次世代につなぐ自分の生き方をつくってきました。

3年1組 実践理科「どうなってるの」



音を出したり聞いたりすることを通して、音の伝わり方の共通点や差異点を基に、音の性質のとらえをつくり変えながら、生活の中にある音とかかわりをひろげてきました。



40年の「とき」を超えて： 学校教育学部2期生同窓会 初開催

令和7年11月2日に初めて学校教育学部2期生同窓会を二部構成で開催しました。1年以上前から全国の同窓生7名が実行委員会を立ち上げ、オンライン会議を開きながら計画を練ってきました。第一部は大学見学ツアーでした。昭和57年春の入学時にはなかった図書館や講堂、リニューアルされた人文棟、整備された中庭など、見学した皆さんは懐かしさと新鮮さが交錯したことを思います。見学後は共に学んだ301講義室に集まり、大森副学長においていただいております。この言葉をいただきました。そして本学職員でもある同窓生が、現在の学部や大学院の様子（コース構成や特色ある授業など）を皆さんに紹介しました。

第二部は会場をアートホテルに移しての同窓会本番でした。2期生は全員で約200名ですが、うち本番には110名が参加しました。これは驚異的な数字だと思います。海外在住で同窓会のために帰国した人もいました。40年ぶりの再会なので、「あなたどちら様でしょうか?」とならぬよう名札を着けてもらいましたが、やはり皆さん面影は残っていて、分からなかったということはほほやかたかと推測しています(笑)

乾杯後はお互いたくさん近況を報告し合い、旧交を温めました。そして当時流行ったJPOPをバックに学生時代の写真をスライドショーで観て懐かしみ、一人ひとりのショートスピーチを聞いて各々の卒業後の生活に思いを馳せました。終わりに入学オリエンテーションで教わった「高田の四季」を全員で歌って中締めとし、その後の二次会も時間いっぱい語り合いました。

「心身ともに元気で、都合が付くことそんな仲間が110人も一堂に会することができたなんて今考えても奇跡だと思います。しっかりと地に足をつけて生きている皆さんの姿からたくさんエネルギーをいただきました。」とは参加者の言葉です。40年の「とき」を超えて実現した今回の同窓会を機に、またいつかみんなで集まれたらいいなあと心の底から思いました。

学校教育学部2期生同窓会実行委員会
委員一同

修了生の住所等をお知らせください
転居・転職・結婚等により個人情報の変更があった場合は、お知らせください。



ご寄附のお願い - 教員養成を通して皆様の思いを将来ある子どもたちに -

上越教育大学リサイクル募金

ご寄附の詳細などはこちら▼
kishapon.com/juen/

上越教育大学 リサイクル募金

検索



上越教育大学基金

ご寄附の詳細などはこちら▼
juen.ac.jp/300किन/

上越教育大学 基金

検索



上教大 なんでも 掲示板

2位



学部教員就職率
13年連続80%以上・
全国5位以内達成は
本学のみ!

学部教員就職率88.5%・全国第2位! 教職大学院教員就職者135名・全国第1位!

文部科学省が公表した国立の教員養成大学・学部の令和7年3月卒業者の教員就職率において、本学は88.5% (卒業生から大学院進学者と保育士就職者を除いた数を母数とした場合)で、全国44大学・学部中、第2位に輝きました。教職大学院(大学院専門職学位課程)修了者の現職教員学生を除いた教員就職率は87.7%でした。教職大学院の教員就職者数は135名で、全国54教職大学院中、第1位です。



詳細はこちら▲

令和8年度入試から 「総合型選抜(I型・II型)」がスタート!

学校教育学部では、令和8年度入試から新たに「総合型選抜(I型・II型)」を導入しました。

「I型」は、高大接続に係る「新潟次世代教員養成プログラム」(前期プログラム)修了者が対象です。第1次選考(前期プログラム総合評価、プレゼンテーション及び面接)及び第2次選考(大学入学共通テスト(5教科5科目))により、入学志願者の能力・適性や学修に対する意欲・目的意識等を総合して選抜します。

「II型」は、特定の教科に強みを持つ教員を目指す高校生が対象です。第1次選考(プレゼンテーション及び面接)及び第2次選考(大学入学共通テスト(5教科5科目))により、入学志願者の能力・適性や学修に対する意欲・目的意識等を総合的に判定して選抜します。



詳細はこちら▲

いそべるあ NGT48・磯部 瑠紅さん出演の 「新潟次世代教員養成プログラム」 紹介動画を公開

「新潟次世代教員養成プログラム」紹介動画を公開しました。本動画では、NGT48の磯部 瑠紅さんが来学し、高校生を対象とした前期プログラムを実際に体験するとともに、受講生や本学教職員へのインタビューを行っています。ぜひご覧ください。



(左から)
動画出演の上野副学長と
NGT48の磯部 瑠紅さん



新潟次世代教員養成
プログラム特設サイト
(動画もご覧いただけます)

*新潟県内で教職に就く強い意欲を持つ高校生を対象に、未来の新潟県及び新潟市の教育を担う人材を育成することを目的としたプログラム

「食の応援クーポン券」事業で学生を支援

本学では、令和7年9月24日(水)から12月26日(金)にかけて、学生を対象に、食堂及び売店における「食の応援クーポン券」事業を実施しました。

この事業は、上越教育大学基金を基に、学生への経済的支援及び食事を通じた健康管理に資することを目的としているもので、今年度は日本学生支援機構の「物価高に対する食の支援事業」による助成も受けたことにより、クーポン券の金額(割引額)が1回300円にアップし、1人当たりの配付枚数も3枚増えて計10枚・総額3,000円分を利用できるようになりました。

事業実施後のアンケートでは、「物価上昇が続く中、大変ありがたい」「雪で出かけられないこともあり、食堂や売店で利用できるクーポン券が嬉しかった」などの声が寄せられました。



たつのちとし 第18回 辰野千壽教育賞の選考結果のお知らせ

優秀賞は山本 靖氏(新潟県立新潟東高等学校 非常勤講師)が受賞されました。応募論文のテーマは、「地理情報科学のWell-beingへの貢献-生徒エージェンシーの涵養をもとに-」です。

奨励賞は窪田 悠氏(東京学芸大学附属国際中等教育学校 教諭)が受賞されました。応募論文のテーマは、「探究的な学びを促す理科の単元展開~カリキュラムマネジメントと国際バカロレアの視点から~」です。



受賞者の山本さん
(前列中央)、
窪田さん
(前列左から3人目)



詳細はこちら▲

J-style 通信

あこがれの職業 としての「教員」

学長 林 泰成



年度末の卒業式のシーズンがやってきました。ご卒業、ご修了される皆さん、誠におめでとうございませう。皆さんの入学時の希いは叶いましたでしょうか。4月には、今度は、新しい出会いが待っています。皆さん

の、新しい場所での活躍を期待しています。そして新年度に入学される皆さん、ご入学おめでとうございませう。夢の実現を目指して、共に頑張りませう。さて、最近、株式会社ベネッセコーポレーションと東京大学が共同で実施している「こどもの生活と学びに関する親子調査」に関する記事を読みました。この調査は、この10年間に約2万組の同一の親子を対象に行われたものだそう。この調査によれば、高校生が選んだ将来になりたい職業の1位は、この10年間連続して「教員」だそうです。教員不足が問題となっている現状からは、なかなか想像し難いことですが、高校生段階では、教員になりたいという人は大勢いるということになります。高校生になり、実際に将来のことを考えて進路選択をしなければならなくなるときに、これまで接してくれた先生方の姿が思い浮かぶのではないかと想像します。また、最近では、奨学金の返還免除制度の充実や、教員の働き方改革も進められており、教職大学院修了者の採用時のインセンティブも充実し

始めているので、こうした人気は、しばらく続くのではないかと想像します。とはいえ、過去10年間のこうした人気にもかかわらず、教員不足が起こっているということは、高校レベルで意識された教職に対する熱い思いを、大学レベルでは維持できていないということのようにも思えてきます。しかし、本学では、この10年以上にわたって、きわめて高い教員就職率を誇っていますので、例外と考えるとよいのではないのでしょうか。私は、教職を、児童生徒らと共に学び続け、自分自身の人間性を錬磨することのできる素晴らしい職業だと思っています。表面的には、教員は教養、子どもは学ぶのですが、そうした関係性の違いはあっても、一人の人間としては教員も子どもも同等だと考えます。もちろん、教師が不祥事を起こすことは実際に起こっていますから、「きれいな事柄だけではない」との批判もあるでしょう。しかし、そうしたことはあるにしても、その理想を追い求める姿勢は忘れないでいただきたいと思っています。さて、これをお読みになっているあなたにはどんな教員になりたいですか。



自然・生活教育学系
教授 高野 浩志

プロフィール

1994年4月、助手として着任。講師、准教授を経て、2025年10月、教授に就任。専門は物理学（剛体の力学）。



皆様に感謝

平成6年4月に助手として赴任して以来32年間、研究と教育に携わってまいりました。これまで、事務局の皆様には大変お世話になりました。また、技術コースおよび学習臨床コースに所属していた際には、ご一緒させていただいた先生方に多くのご指導とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。さらに、卒業研究や修士論文に関するゼミを通して、学生の皆さんと共に学び、楽しい時間を過ごすことができました。特に、卓球部の顧問として部員の皆さんと過ごした日々は、かけがえのない思い出となっています。これからは、これまでの経験を糧に、新たな日々を歩んでいきたいと思っております。長い間、本当にありがとうございました。



学校教育学系

教授 早川 裕隆

プロフィール

2010年4月、准教授として着任。2013年4月、教授に就任。その後、上廣道徳教育アカデミー所長を兼務。専門は、道徳教育論、道徳科指導法。



三度目の正直 ～関わった人が、全財産～

小学校の教員時代、人事の都合で2通の退職願を書き、自分の意思で書いた3通目で本学に着任して、16年が経ちました。この間、道徳が教科化され、教科書検定の審議会の委員を務めたり、本学の上廣道徳教育アカデミーに関わったり…。その度に多くの皆様に支えられました。至らない自分がここまで来られたのは、先生方や事務局の皆様、院生や学生の皆さんをはじめ、これまで関わった全ての皆様のおかげです。皆様が、私にとって大切な大切な財産です。感謝致します！



インタビュー 大学院 で

輝く人



大学院2年
教科教育・教科複合実践研究コース
芸術創造領域(美術)
とちない さやが
栃内 清花さん

大学院進学への道のり

私は、両親と姉が教員を務めている影響から、学生時代より教師を志望していました。そのため学部時代は教育学部に所属しましたが、入学初期は「家族が教員である」ということ以上の、教師になりたい理由を見出せないと感じることも多々ありました。そんな中、偶然受講した油彩画の授業をきっかけに、美術教育という分野に出会いました。油彩画を通して美術を学ぶことや指導することへの興味が膨らんだため、中学校・高校の美術教員免許取得を目指し、大学院への進学を決意しました。

大学院での学び

大学院では免許取得を第一の目的としていましたが、美術に関する知識が浅く、授業についていけない不安に感じていました。しかし実際の授業では、どの分野においても先生方が基礎から丁寧に教えてくださり、安心して学びを深めることができます。また、大学院での授業や出

会いをきっかけに、様々な方との交流の場面や美術制作の場が広がったことで、多様な方面から教育への考えが深まりました。

特に、大学院1年目の後期に出会った縄文土器に関しては、兪先生のご指導の下、実際に制作を行いながら、教材としての活かし方について研究しています。自らの興味・関心を武器にしつつ、教員自身も楽しみながら教育の在り方を検討していく、という視点を身に付けられたのは、実践的な学びの機会に恵まれた上越教育大学だからこそです。

最後に

現在、明確な志望動機を持って教師を目指すことができるのは、上越教育大学での学びや出会いがあったからだと確信しています。上越で得た経験や学び、交流関係を今後も大切にしながら、美術の面白さを伝えていける教師を目指していこうと思います。



インタビューを終えて

栃内さんは共に学ぶ院生仲間であり尊敬する先輩です。「美術教育」が教師になる意味そのものになっていることが伝わりました。制作から教材へと自身の経験や学びを教育へと繋げていく姿、私も共に目指していきたいです。

■ 聞き手・文(写真右)

大学院1年
教科教育・教科複合実践研究コース
芸術創造領域(美術)
松坂 明日加

免許 = 教育職員免許 取得プログラム

本学大学院入学者で、教員免許を持っていない方や他校種、他教科の教員免許を取得したい方を対象に、長期履修学生制度を利用し、2年分の学費で3年間在学し、大学院の教育課程と学部の教員養成カリキュラムの単位を修得することにより、教員免許状を取得することができるプログラムです。



QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

アンケートにご協力ください
公式ホームページにおいて本誌に関するアンケートを実施しています。左のQRコードを読み込むことで、携帯端末からもご回答いただけます。アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で10名様に粗品をお送りいたします。

